

現場の声

現場の人たちの声を聴く

被害にあっている農家の方や対策にあたっている町鳥獣被害対策実施隊の方はどんな思いを持っているのでしょうか？



鳥獣被害にあった果樹畑（昨年撮影菊地さん提供）



イノシシによる掘り起こしの被害にあった菊地さんの畑（1月22日撮影）



農家（石母田地区）
菊地 武雄さん

このままでは農業をする人がいなくなってしまう

農 家にとって農作物の鳥獣被害は本当に深刻な問題です。

私の畑ではイノシシとサルの被害が大きいです。モモ・プラム・柿は果実をとられるだけでなく、イノシシには畑を掘り起こされて幼木が枯れたり、土がデコボコして草刈り機が使えなくなったりとさまざまな被害が出ています。

特に被害が大きいイノシシが増えたのは原発事故以降です。原発事故前は狩猟する鉄砲の音が聞こえてきましたが、今は聞こえてきません。やはり狩猟する人が

がいなくなってきたこともイノシシが急激に増えた原因ではないかと思っています。個人の対策として追い払い花火や電気柵、イノシシが嫌う忌避剤の散布などをやりましたが慣れてくると効果が薄れ、被害に遭ってしまおうという、いたちごっこで根本的な解決につながりません。

個人での対策に限界があり、やはり地域全体で捕獲して頭数を減らしていくことが1番の対策だと思っています。さまざまな対策にはお金や労力がかかり、鳥獣被害が原因の一つで農業をやめる人もいます。実際に私の周りでも農家の数が随分と減ってしまいました。丹精込めて栽培した農作物が鳥獣被害に遭うのを目の当たりにして、後継者確保に苦慮してしまうのが現状だと思います。

私もなんとかやっていますが、栽培面積は縮小せざるを得ず、農業をいつまで続けられるのかという状況で、鳥獣被害には本当に困っています。

鳥獣被害を減少させるため 地元の方と協力して活動



町鳥獣被害対策実施隊
隊長 鈴木 正一さん

実 施隊の主な活動内容は、鳥類の追い払い・集落パトロール・捕獲檻の設置や巡回・捕獲個体の駆除などを行っています。震災以降は、イノシシの数が急激に増えたため現在の活動のメインはイノシシ対策です。

活動するにあたって隊長として、野生動物が相手であり、銃を使用することもありますが、隊員の安全確保に細心の注意を払っています。また、隊全体でも事故が起きないように常に緊張感を持って活動することを心がけています。町民

の安全や農作物を守るため自分たちの仕事が忙しい時期も巡回を欠かさずやる必要がありますが、隊員同士で協力し合いながらやっています。鳥獣被害対策は実施隊だけではできませんので、地元住民の方と協力して活動しています。やはり地元の方からの情報は、わたりの設置などで大変参考になります。また、活動に対して感謝の言葉をかけていただくこともありますが、本当に被害に困っているんだなど感じています。

現在、隊員の高齢化も進んでいて、10名の狩猟免許所持隊員の半分が70歳以上です。活動するために知識や技術などが必要となってくるため新しい人が加入するにはハードルが高いのも事実です。しかしながら、鳥獣被害は急になくなることはありません。町民の安全や大切に育てた農作物を守り続けるためには若い人の力が必要です。興味のある方がいましたら、ぜひ町産業振興課に問い合わせをしてみてください。

野生のイノシシに遭ってしまったら？

昨 年末の大雪以降、全国でイノシシによる人身被害が相次いで報告されています。もし遭遇してしまったら次のことに気をつけましょう。

■イノシシを刺激しない

イノシシは刺激されると興奮して襲ってくる場合がありますので、大声を出したり、ものを投げたりしないでください。

■イノシシから距離をとる

遭遇した場合は、絶対に刺激せず、高い場所に上がる・物陰に隠れるなどしてやり過ごし、落ち着いてその場を離れてください。

■イノシシの逃走経路を絶たない

逃走経路にいる人に対して攻撃してくる場合がありますので、進路をふさがないように気をつけながら、安全を確保してください。



◀箱わなにかかったイノシシを駆除



新規のくりわな免許取得者
に対して講習会を開催

箱わなを設置する実施隊
（町内に32基設置）